

ハーグ児童労働世界会議(2010年5月10-11日)

オランダ政府主催 ILO協力

2016年までに最悪形態の児童労働を撤廃する道筋



Illustration by Dick Bruna © Mercis bv, 1997

堀内光子
児童労働ネットワーク代表
文京学院大学大学院

ハーグ会議の目的

なぜハーグ会議を開催したか



1. ILO138号・182号条約の普遍的批准を早期達成すること
2. 緊急事項として最悪の形態の児童労働をなくすための即時・効果的な方策を取るというコミットメントを行うこと
3. グローバル・アクションにある2016年までの目標達成への 努力を大幅に強化することに合意すること

ハーグ会議の背景・意義

- 1997年アムステルダムで最初の児童労働に関する世界会議開催
- 1999年ILO182号条約採択
- 2006年ILOグローバル・アクション採択
2016年までに最悪児童労働を撤廃
- 2010年グローバル・レポート発表
第3回目の児童労働報告
児童労働削減ペース減速
経済危機・回復からのインパクト

ドナーオランダ社会問題・雇用大臣：ILO総会及び国連MDGsレビュー会合(ハーグ会議閉会式で、MDGsサミット?9月)に「道筋」の提出を明言)

2010年11月ILO理事会 グローバルアクション採択へ(?)

18歳未満の子どもが行う最悪の児童労働 (ILO182号条約)



買春する少女
LO photo

1. まるで奴隷のように働かされる仕事
債務奴隷、強制徴用の兵士、人身取引
2. 買春やポルノに子どもを使うこと
3. 不正な活動に子どもを使うこと
犯罪の手引きや麻薬の密売に子どもを使う
4. 児童の健康、安全、道徳を害する業務
危険有害業務、深夜業、坑内労働 など



ILOグローバルアクション

2006年11月ILO理事会採択

2016年までの最悪の形態児童労働の撤廃に向けて、ILOの整合性・総合的なアプローチの強化 サハラ以南アフリカ地方への焦点あてること

1) 児童労働に対する国内対応への支援

2) 世界ムーブメント(運動)の進化・強化

- MDGs, PRSPs, EFAその他の開発関連政策枠組みへの児童労働問題の組み入れ促進
- 二国間・対外援助枠組みでの人権、特に児童労働インパクトの強化
- 児童労働の実践的な統計定義を2008年国際労働統計会議への技術的報告・決議案の準備
- 子ども家事労働など見過ごされている最悪形態の児童労働のアドボカシー強化
- より整合性な形でEU等の地域課題に置かれるようロビーすること
- 国連ファミリー、地域組織、国際NGOでの国際レベルでの対話・協働の推進

3) ILO全体の優先課題に児童労働を組入れ

ハーグ会議の概要

－「2016年までの最悪形態の児童労働撤廃の道筋」に拍手で合意

出席者－80カ国、380人が参加
ビデオ・メッセージ:ヒラリー・クリントン(米)
閉会式にベアトリックス・オランダ女王が出席

1. 全体会合(一般スピーチ・「道筋」への意見)

1)セネガル、インドの元児童労働者の経験を語るスピーチ

2)ILO「グローバル・レポート」発表

3)ユニセフ・世界銀行・ILO調査研究プロジェクト「児童労働を理解すること」作成のレポート発表

4)アフリカへのフォーカス:アフリカ諸国は大課題であることを容認

2. 分科会「政治的意識」、「三者のアクション」のテーマの下にさらに4つに分かれた。



出典:ILO ハーグ会議子どもたちのダンス

ハーグ会議の成果

ドナー社会問題・雇用大臣総括

ILO総会ーグローバルレポート審議(2010年6月11日)

ハーグ会議閉会式のILOの要請により出席

1. 政治的に進んで取り組むことーILO構成員・市民社会組織の会議参加が証明
2. 状況変化について関心ある例の提示
ブラジルの条件付キャッシュ・トランスファー (現金移転)
3. ブラジル政府がフォローアップ世界会議を2012か13年に開催することを受諾
2016年の目標達成のために、進捗評価は重要
4. 「道筋」は、政府の第一義的責任を確認
労働者、使用者、市民社会組織の支援の重要性を確認
5. 教育、社会的保護、ディーセント・ワークが重要
統合された、幅広い政策アプローチが必要
6. フォローアップが重要
児童労働の優先度を高くする
方策についての評価が重要

児童労働撤廃の道義的責任がある。

ハーグ会議の評価(ILO総会6月11日)

1. ILO総会でほとんどの政・労・使が成功と評価
オランダ政府に感謝を表明
「道筋」は重要と認識
2. 児童労働への理解の進化
 - 1) 総合的な政策介入の必要性
特に貧困－ディーセント・ワーク、教育
 - 2) 人権問題、MDGs等開発課題への関連
3. 効果的な対応 唯一つの解決策ということはない。
社会の状況に応じて対応が違う

(1. 児童労働全般か？最悪の形態の児童労働か？)
4. より大きな焦点を当てる必要があると思われる点(堀内)
女児・女性 メディアの役割 企業の社会的責任

ハーグ会議の成果

－2016年までの最悪形態の児童労働 撤廃の道筋(拍手で合意)

政府、社会的パートナー、市民社会組織に、
教育、社会保護及びディーセント・ワーク
アクセスの強化を要請

政府が第一義的責任
社会的パートナー(労・使)、市民社会組織、
国際機関は、
政府アクションを支援する重要な役割

政府の政策優先課題

- ①法制定・実施、 ②教育・訓練
- ③社会保護(社会・健康サービス、差別への闘い、子どもを保護する家族の能力の支援、最悪形態児童労働者への戻り予防)
- ④労働市場政策



写真:ILO ハーグ会議場

ハーグ会議の成果

－2016年までの最悪形態の児童労働 撤廃の道筋(拍手で合意)

2. 社会的パートナー(労・使)－ 優先的アクション

- ①最悪形態児童労働禁止・撤廃のための即時・効果的方策を取ること
- ②児童労働効果的廃止のアドボカシー(提言)
- ③効果的訓練・教育政策、就業最低年齢までの無料・義務・良質の教育のアドボカシー
- ④(労働組合による)経済分野へのアウトリーチ
- ⑤サプライチェーンでの児童労働と闘う効果的システムの確保

3. NGOその他の市民社会組織－ 優先的アクション

- ①効果的な児童労働廃止のための社会における支援を作る
- ②政府に子どもの権利尊重を要請、不利益な立場にある子どもへの適切なサービスの確保、児童労働からの引き離しへの援助
- ③マルチステークホルダーのイニシアティブ支援
- ④調査・能力構築を含む、児童労働の監視への貢献
- ⑤子ども・子どもの家族の包含・参加

ハーグ会議の成果

－2016年までの最悪形態の児童労働 撤廃の道筋(拍手で合意)

4. 国際機関－優先的アクション

- ① 開発戦略、特に貧困削減、健康・教育、子ども・社会保護、ジェンダー(男女)平等、人間開発へ最悪形態の児童労働政策の主流化の政府努力への技術的・適当な場合には資金的援助
- ② 国連・多国間機関の効果的なパートナーシップの推進
- ③ 追加的資金支援の動員
- ④ 調査研究の更なる方法論・能力の発展
- ⑤ (政府・関係パートナーとともに) 子どもの危険・有害業務についての取組み強化
- ⑥ 児童労働に反対する世界運動の継続した発展の推進・支援

5. 道筋の推進及び進歩のモニター

ユニセフ・世界銀行・ILO調査研究プロジェクト 「児童労働を理解すること」作成のレポート発表 「児童労働に反対する勢力に加わる」(2010年5月)

全体のメッセージ

1. 進歩にかかわらず、2016年の目標達成のために、特にサハラ以南アフリカ地方で、児童労働に反対する努力を拡充する必要がある。
2. 児童労働は、大変高い人間的コストで、幅広い国内開発目標の達成への重要な関わりを持つ。
3. 適切な法的基礎の上に児童労働に対する総合的な政策対応が必要
4. 児童労働への理解に当たってなお残っている障害が、政策形成・効果的な焦点を定めた政策介入を妨げている。



新たな力強い

グローバルムーブメントを



写真:ILO
児童労働にレッドカード